

名産研活動レポート

VOL.36配信

2026.1.31

研究部より

「第49回 産業科学フォーラム」を開催しました

当財団の知見交流事業として、「第49回産業科学フォーラム」を会場とオンライン併用にて開催しました。

- 日時/
12月19日(金)
14:00～15:20
- 講演(配信)場所/
名古屋大学VBL棟3Fベンチャーホール(オンライン併用)
- テーマ/
「原子力エネルギー利用のゆくえ」
- 講師/
榎田洋一 上席研究員
(名古屋大学名誉教授,
(公財)原子力安全研究協会
研究参与)
- 参加者20名
(内オンライン参加9名)

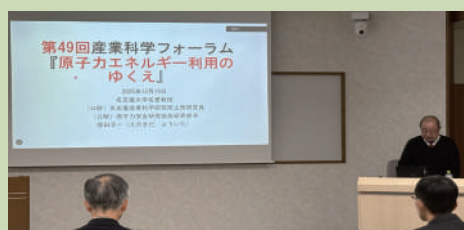
講演概要/

まずエネルギー需要という面から紹介された。20世紀は原子力の平和利用のための軽水炉の実用化が進み核燃料リサイクルが提唱されたが、並行して技術の発展により再生可能エネルギーの経済性も向上している。しかし、21世紀に入り、これまでとは比較にならないエネルギーを必要とするデータセンターの増設やAIの開発が進められ、エネルギー源の経済性と環境問題から原子力エネルギー利用の期待が高まってきた。この現状を踏まえ、原子力利用の課題解決に向けた考えが紹介された。

安全性では高レベル放射性廃棄物の処分と再処理(燃料リサイクル)、経済性の改善では小規模プラントの導入と技術教育の伝承への転換モデルが紹介された。原子力・非原子力にかかわらず、大規模プロジェクトの構想は遅延し経済性を悪化させている。そのため、アメリカでも認可されやすい小型原子炉の計画が進められ、さらなる経済性の向上に向け、燃料の長寿命化など周辺技術の開発が必須であると説明された。また人手不足に対応する関連技術者の技能の習熟も必要である。

周辺技術の開発の各国の状況が紹介されたが、燃料の長寿命化にはウランの濃縮濃度の向上が必要で、核兵器開発との兼ね合いが問題となるようである。燃料のリサイクル利用(再処理)や放射性廃棄物管理は重要であり、世間に理解してもらうべく努力する必要がある。

(文責 山根隆)



講演中の榎田洋一上席研究員

詳細はこちら

<https://www.nisri.jp/dor/topics/topics-detail.html?id=84>

「令和7年度の研究会活動をHPに公開しました」

研究会は、産業科学振興における重点領域及び学際的横断領域に係る「産学官連携研究」を担うとともに、産学官プロジェクト研究の調査・企画に係る諸事項を検討し実施することを目的としています。上席研究員またはコーディネータが責任者となって運営します。

本年度は以下1件の新規活動を行いました
・5G/beyond5Gそして6G用誘電体材料とその応用研究会

当該webページ抜粋→

詳細はこちら

<https://www.nisri.jp/dor/groups/index.html>

研究会リスト

研究会は、産業科学振興における重点領域及び学際的横断領域に係る産学官連携研究を担うとともに、産学官プロジェクト研究の調査・企画に係る諸事項を検討し、実施することを目的としています。研究会は、上席研究員またはコーディネータ(以下「主査」という)が責任者となって運営します。

実績報告の詳細は研究年報で閲覧できます。

令和7年度

研究会名	分野	主査	区分
5G/beyond5G、そして6G用誘電体材料とその応用研究会	環境・ナノテク・材料	大里 齊 (上席研究員)	新規

「アグリビジネス創出フェアin東海」に出展しました

- 日時/
12月10日(水)～11日(木)
- 場所/名古屋大学野依記念学術交流館
- 主催/NPO法人東海地域生物系先端技術研究会

概要/

- ・ブース展示
企業・県・大学・高校・行政等
- ・東海4県農業関係試験研究機関シンポジウム
テーマ「気候変動に対して取り組んでいる農業分野の研究開発」
- ・東海生研 第4回セミナー

中部TLOは、中部地域の大学・研究機関、スタートアップ、中小企業を対象に、技術開発や事業育成を支援する広域型技術移転機関(TLO)であり、産業界との橋渡しを行うことで、新たな技術の社会実装を促進してきました。
近年は特に、炭素・資源循環に注力しています。本フェアでは、持続可能なアグリビジネスの推進に関する支援技術を紹介しました。



名産研の展示



「第15回AITテクノサロン」を共催にて開催しました

日時/ 12月17日(水)
13:30～17:00

開催方法/ 愛知工業大学
自由が丘キャンパス

テーマ/AI技術がもたらす「ものづくり」の進化と展望

主催/ 愛知工業大学総合技術研究所

共催/ (公財)名古屋産業科学研究所

協賛/ (株)大垣共立銀行、
豊田信用金庫、
(株)名古屋銀行

AITテクノサロンは、愛知工業大学教員の研究成果・シーズを紹介し、地域の方々との交流の場を提供しています。
今回はAI技術がもたらす「ものづくり」の進化と展望」をテーマに話題を提供いたしました。

THE SPEAKER LINEUP

13時30分～
徳久 良子
情報科学部情報科学科 教授
生体AIからAIエージェントへ：
生体AIの進化と展望

14時00分～
岩月 栄治
工学部社会情報学科 教授
社会基盤インフラに関する働き、業務管理
とAIの活用に関する講演について
——エンタープライズ環境でのAI活用と展望——

14時30分～
山本 義幸
工学部社会情報学科 教授
社会基盤への人工知能の活用事例

15時10分～
野中 孝史
経営学部経営学科 教授
オルタナティブ・ビジネスとAI
AIによる社会課題の解決

15時40分～
内種 岳詞
情報科学部情報科学科 准教授
進化計算による最適化技術とその応用

16時15分～
意見交換会
(昼食による懇話会)



意見交換会





「北大スマート農業オンライン研修」で弊所が講演を行いました

弊所の鈴木常務理事は、農学分野の研究者でもあり、継続的に活動している「スマート農業支援」のため、全国各地での研修イベントで講演活動をしています

●日時/

- ①12/16 (火)15:00～16:30
- ②1/9 (金)15:00～16:30

主催：北海道大学スマート農業教育拠点

弊所の鈴木常務理事が「北海道大学スマート農業オンライン研修」で講演を行いました。スマート農業における政策、AI技術やドローンやデータの活用まで幅広く紹介致しました。

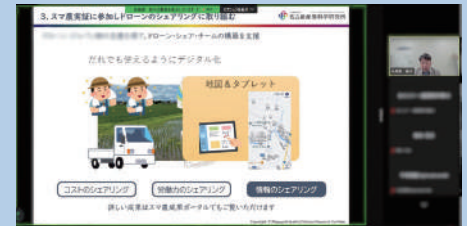
弊所では「スマート農業支援」のため、全国各地での研修イベントで講演活動をしています。

【テーマ】

- ①12/16:「進む、中山間地域のスモール・スマート農業」
- ②1/9:「データを活用したスマート農業をもっと身近に」



オンラインでの講演 ↓



「第2回サトウキビ等甘味資源作物の利用拡大シンポジウム in 沖縄」が開催されました

～甘いだけじゃない、島のサトウキビが描くSAFの未来～

●日時/

10/28 (火)15:00～16:30

シンポジウムは農林水産省 農産局 地域作物課「砂糖等の新規需要開拓支援事業」の助成を受けて実施しています。

主催/ 戦略農業振興支援

ネットワーク合同会社

後援/ (公財) 名古屋産業科学研究所

事務局/ 合同会社AMU経営研究所

本シンポジウムは、サトウキビの新たな可能性としてSAFへの活用をテーマに、産学官民が一体となって地域の未来像を描く場です。サトウキビSAFサプライチェーンになり得る組織の参画を促し、一人でも多くの皆様が日本の未来を語る機会を創造します。

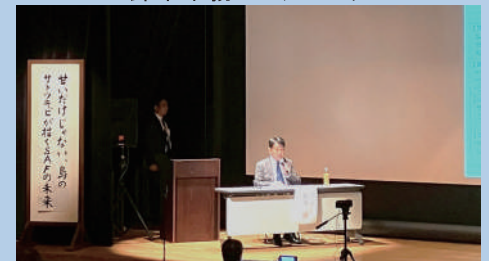
今回は、月に策定された「第7次エネルギー基本計画」においてSAFの導入目標が設定されたことを踏まえ、サトウキビSAFサプライチェーンになり得る組織の幅を広げます。需要サイドの状況にも焦点をあてつつ、大局的に世界の潮流からサトウキビSAFの最新情報について発信いたします。

弊所の理事である愛知工業大学 近藤元博教授には「SAFと取り巻く情勢について」をテーマに講演頂き、その後のパネルディスカッションにも参加されました。パネルディスカッションのモデレーターには弊所の鈴木常務理事が務めました。



Schedule	
13:00 - 開会の挨拶	戦略農業振興支援ネットワーク合同会社 代表社員 森川 昌司
13:05 - 開会の趣意説明	農林水産省 農産局地域作物課 課長補佐 飯塚 康太 氏
13:10 - 講演1 SAFと取り巻く情勢について 世界的なカーボンプラントの動向の解説	愛知工業大学 教授 近藤 元博 氏
13:40 - 講演2 バイオ燃料原料としてのサトウキビに求められる生産上の特性	サトウキビコンサルタント 鈴木 聡 氏
14:25 - 講演3 サトウキビは次世代エネルギーの主役！	株式会社サトウキビエネルギー シニアアドバイザー 徳田 慎一 氏
15:10 - 講演4 サトウキビ由来バイオエタノールのジェット燃料 化学原料への展開	化学工学部地域連携センター推進委員 (出光興産株式会社) 今井 博文 氏
15:55 - SAFのサプライチェーンになりうる業界に関する調査	合同会社AMU経営研究所 総括研究員 森川 大数 氏
16:15 - パネルディスカッション	モデレーター 公益財団法人名古屋産業科学研究所 常務理事 鈴木 剛 氏
16:55 - クロージング	

鈴木常務 モデレータ



近藤教授 (右から4人目)

